



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	研究の社会的インパクトとはどういうものか : 事例から学ぶ
Citation	第19回JINSHA 情報共有会 : 「社会的インパクト」を「評価学」の視点から考える, 77-92
Issue Date	2025-03-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/94738
Type	conference presentation
File Information	077-092.pdf



第2部 ワークショップ

研究の社会的インパクトとはどういうものか

～事例から学ぶ

開催場所：北海道大学 創成科学研究棟 5F 大会議室

参加者：27名（登壇者2名を含む） 6グループ

※1グループは4～5名で構成。

6グループのうち1グループは企画者を中心とし、オンライン参加。

タイムテーブル：説明・準備（約10分）⇒グループワーク（約50分）⇒全体発表・ディスカッション（約60分）〈120分〉

ワークショップの概要

本ワークショップは、研究が生み出す社会的インパクトについて、自分自身が考える社会的インパクトとはどのようなものかという点からスタートし、そもそも社会から求められているインパクトとはどのようなものか、インパクトはどのように可視化できるのか、社会的インパクトを研究評価に用いる際の課題とは何なのかといった論点について、参加者が理解を深める契機にしたいとの考えから企画された。国立大学では、第4期中期目標期間中に社会的インパクト評価が実施され、その結果が第5期中期目標期間の運営費交付金配分に反映されることもあり、業務上、情報ソースの取りやすさ、ナラティブの使いやすさ、高評価の得やすさ等から事例を選ぼうとしがちである。本企画では、いったんその視点から離れることで、エビデンスの取りにくさから対象外とされてきた事例や、社会的インパクトを創出していたにもかかわらず当たり前すぎて選択肢の外にあった事例なども検討対象となることを目指した。企画にあたっては、主催校である北海道大学を中心に、人文・社会科学系 URA ネットワークの有志メンバー¹がオンラインで数回にわたり議論を重ね、ワークショップの目的や、参加しやすく気づきが得られる構成について検討した。

ワークショップは、参加者による事前準備、当日のグループワーク、全体発表・ディスカッションの3構成からなる。

まず事前準備では、研究が生み出した社会的インパクトだと自身が考える事例について、企画側が指定した準備シートに沿ってまとめ、当日のグループワークで発表する前提で事前に提出した。グループ分けは、参加登録時の二つの質問、1) 取り上げたい事例の研究分野、2) 参加者のバックグラウンド、担当業務等²を参考に企画側で行い、当日に参加者に公表した。

ワークショップ当日は、提出された事例を集約し、事例集として参加者限りで共有された。参加者限りとしたのは、進行中のプロジェクトや研究者の確認を得ていない事例であっても、自由に議論し互いの理解を深められるようにするためである。事例は、人文学・社会科学が半数以上を占めたが、約4分の1が医学保健・ライフサイエンスとなった³。

グループワークでは、各自の事例紹介と、提出した事例についてグループ内での意見交換を行った。事例紹介は、社会的インパクトの内容説明だけではなく、なぜこの事例を選んだか、なぜこの事例が面白いと思ったか、事例自体の問題点、課題等も併せて説明し、グループ内で共有した。グループワークを通じて、多様な研究テーマが創出する社会的インパクトの具体的なイメージと、そのイメージを社会的インパクトとして可視化する難しさを共有することができた。

¹ メンバーは以下のとおり（五十音順）：荒木裕子（広島大学）、稲石奈津子（京都大学）、押海圭一（国文学研究資料館）、川人よし恵（大阪教育大学／大阪大学）、佐々木結（京都大学）、新澤裕子（東京大学）、中野悦子（北海道大学）、藤川二葉（京都大学）、森本行人（筑波大学）、山田綾子（大阪大学）。

² 質問は以下のとおり：1) 現時点で、取り上げたい事例の分野をお知らせください（変更になっても構いません）。選択肢：①医学保健・ライフサイエンス、②物理・工学・数学、③社会科学、④人文学・芸術、⑤その他、から1つ選択；2) グループ分けの参考としますので、ご自身の担当業務の詳細や、過去に関わったプロジェクト、バックグラウンド（研究分野）等について、ご記載ください（例：研究評価、IR担当、国際業務担当、産学官連携担当、RISTEX〇〇プロジェクトへの参加経験あり、歴史学、宇宙物理学、等）。

³ 26件中件数の多いものから、④人文学・芸術：9件、③社会科学：8件、①医学保健・ライフサイエンス：6件、②物理・工学・数学：2件、⑤その他：1件（＝①と③にまたがる事例）の順。

全体発表・ディスカッションでは、まず各グループの代表が、グループワークで紹介された事例のポイントと議論の内容を発表した。おもに事例紹介が中心ではあったが、各事例が持つ課題について、様々な角度から示されることとなり、参加者が研究の社会的インパクトについての理解を深める機会となった（議論の詳細は、全体発表・ディスカッションからを参照のこと）。

一方で時間や進行の関係上、これらの課題や企画段階で挙げられていた論点などをさらに深掘りして議論するまでには至らなかった。事後に行った参加者アンケートでも、自分で事例を検討・準備し、参加者らとディスカッションした点については満足度が高かったが、改善点として、議論にもっと十分な時間を取った方が良い、ワークショップの目的やディスカッションのゴールが設定されていた方が議論しやすい、という意見が挙げられた（アンケート回答の詳細は事後アンケートの結果を参照のこと）。

今後、各所でワークショップを開くなどして、事例ベースで研究が創出する社会的インパクトとは何かを考える機会を増やすことが、研究と社会とのつながりを考える契機になると期待している。またこれは、URA など研究推進担当者の「ナラティブ力」の向上にも寄与できると考える。なお準備シートを含む事前準備の配布資料は、本報告書の 88 ページに掲載されており、北海道大学統合 URA 本部ウェブサイト (<https://u4u.oaic.hokudai.ac.jp/12466/>) からダウンロードできる。

全体発表・ディスカッションから

全体発表・ディスカッションの中で示された意見や課題は、以下のとおり⁴。

研究の「社会的インパクト評価」について

・イギリスでは、次回 REF2029 のインパクト評価で、インパクトとともにエ

⁴ ここでの記載内容は、個人や事例、プロジェクトなどが特定されないように配慮しながら、発言の趣旨が伝わるよう、適宜編集し項目ごとに集約している。そのため当日の発言がそのまま文字おこしされたものにはなっていないことをあらかじめご承知おきいただきたい。

ンゲージメントが指標に含められることになり、議論が行われている。かなり混乱していると聞が、これは、2014年にREFでインパクト評価をはじめて導入しようとした時と同じような状況である。一度やってみることで、マネジメント層の意識も変わる。論文指標だけでなく、インパクトも評価され、国の研究費の配分にまで影響するという経験は、英国大学のマネジメント層の意識を変えてきた。日本でも、URA主導でそういうポジティブな方向につなげていけると良い。

- ・ 研究評価に社会的インパクト評価が導入されると、課題解決志向型の研究が評価され、そうでないものが評価されないようになるのではないかな。

社会的インパクトへの意図の有無、戦略性

- ・ 政策改善などの社会的インパクトが当初から織り込み済みの研究プロジェクトもあれば、そもそも社会的貢献を意図していない研究が「副次的に」政策に参照されていくというケースもある。基礎研究の多くが社会的インパクトを意図していないところから始まっているので、そのような研究がどのように社会的インパクトを出していくのかを見ていくことが重要になる。
- ・ 産学連携での社会的研究と、基礎研究・人社系から創出された社会的インパクトとでは、大きな違いがある。前者はそもそも社会的インパクトが創出できなければ共同研究は失敗とも言える。一方、後者は最初から課題設定することになじまない研究である。そういうものがあるのに、課題設定を研究者に求めるのは非常に難しい。
- ・ 社会的インパクトに必要なものは、セクターをこえた交流や対話。アカデミア以外の人当事者となり、変化の影響を受ける。そのため、創出されたものを見つけ出す当事者以外の人材があつてこそ、インパクトは達成される。社会的インパクトは政策に対して変化をもたらすこと、概念や考え方の展開、政策変更などを指す。またインパクトはポジティブとは限らない。ネガ

ティブなインパクトもある。コンサルティング会社はポジティブな数字だけ算出するので重宝される。

- ・ REF の場合、どの審査区分（研究分野）で出すかという戦略的側面もある。
- ・ 例えば展示がどのような行動変容を起こすかについての調査の場合、どんな行動変容が起きたかをどのように（何をエビデンスとして）見ていくのかが課題であると同時に、その展示がどういうインパクトを起こしたいと企画されているかについての考察も必要。

研究のインパクトに対する「帰属性」

- ・ 研究が政策に影響を及ぼした因果関係を説明することが難しい。内容的にはマッチしていたとしても、帰属性のエビデンスがない場合に社会的インパクトがあったと言えるかどうか。例えば、その研究を行っている研究者が審議会などに招へいされ研究の意義を説明したなら、その因果性の根拠となるが、そうでない場合は難しい。

エビデンス、情報源（Source）

- ・ 確実に政策決定にかなりの影響を及ぼしているにもかかわらず、方針や要綱・要領などの具体的な政策・行政文書になった場合に、特定の学派からの引用であることがわからないようにするという慣行があるため、エビデンスとして残らず、一般にはわからない形にならざるを得ない。
- ・ エビデンスを書く難しさがある。最初からインパクトの創出を想定していない場合には、エビデンスを残せない。
- ・ 後付けでエビデンスを積んでいくのは難しいので、研究者との協力が必要となるが、研究者はなかなかエビデンスまでそろえる時間や余裕はない。URA がどれくらいつないでいけるかがカギ。

- ・社会的インパクトがあると言っても、可視化できないと評価はできないので、情報源をどうするかが課題。

研究費、外部資金、資金調達

- ・研究テーマが課題解決型で、研究サイドでは成果には社会的インパクトが創出されていると考えていても、ファンディングエージェンシーや外部評価で十分な理解が得られず研究費が減少し、その結果、想定した社会的インパクトの創出が難しくなることが実際に起こっている。
- ・社会的インパクト創出のための資金調達手段としてクラウドファンディングを用いると、継続性が難しくなるため、自治体やコミュニティを巻き込んだ制度改革、社会変革を検討する必要がある。

研究が目指すものと社会が求めるものとのギャップ

- ・研究者の役割は、問いを立て、仕組みを作り、言語化し、客観的汎用化を行い、普遍知を取り出すこと。そしてこれを住民に示すことで、当事者としての意識変革や行動変容に結びつく。それを見ることで、研究者も自分の研究が社会的影響を起こしたと知る、という循環になる。しかし、その変化の量的なエビデンスを示すのは難しい。さらに、例えば過疎が課題だったとしても、過疎の解消が住民から求められていないこともある。つまり過疎であり続けたとしても、変容が起こることで住民の幸福度が上がる場合、この取り組みの評価は、最初に立てた KPI では測れず、まさに参加型評価が有効になるだろう。さらに成果は長期的に見なければわからないので、国立大学の評価期間中にうまく成果が出るとは限らない。研究によってはインパクトが出るまでに非常に時間がかかるものがある。

社会的理解の促進、アウトリーチ

- ・研究を進めて社会に受け入れてもらうための工夫が必要。

- ・社会に早く理解してもらう工夫、メディアへの露出、人の目につく工夫。

その他

- ・インパクトのストーリーを考える作業は、研究を広げて考える発想の練習になるので、今回のようなエクササイズがあってもよい。
- ・ストーリーで伝えられるインパクトがある。スナップショットではなく、有名誌に掲載された論文がその後どうなったのかを見せることで、研究の本当の良さが示せるのではないか。
- ・社会的インパクトといっても、その範囲（reach）が学界プラスアルファの少数のコミュニティにのみ影響する場合もある。

登壇者からのコメント

押海：エビデンスは早めに集めておかないと、ギリギリになってから集めるのは難しい。各大学で、本日のワークショップで行ったようなインパクト集をどのように作っていけばよいのか。研究シーズ集を公開している大学は多いので、同じように整備する必要がある。一方で、第4期の大学の社会的インパクト評価への対応は非常に難しいと改めて感じた。特に、大学等の執行部に近ければ近いほど難しい。例えば小規模の国立大学では、全体で3件のケーススタディを提出することを求められることになるが、ケーススタディの選択について学内でどのように合意を得るかという問題が生じる。

源：私自身は質的評価者なので、今回のワークショップの議論を通じて、これから質的評価が面白くなると思った。一方で、事例発表にもあったように、市場性と倫理の問題をどう考えるか、社会的リターンと財務的・経済的リターンをどう捉えていくかが非常に難しいと改めて感じた。

インパクトを見せていく戦略性は非常に重要。産学連携や政策化を意図している場合は、ステークホルダーが集まってくる。公共性や経済性など価値基準

があらかじめ想定される場合は、戦略も立てやすい。だから定量的な社会的インパクトも示しやすいのではないか。一方で、研究にはあらかじめアウトカムを設定できない分野、やってみないとわからない分野もある。その場合は、時間の経緯が重要になる。プログラム評価では、近位のアウトカム、遠位のアウトカムと言ったりするが、近位のアウトカムは直接的なアウトカムを指し、研究の場合は学術的価値のような本質的なアウトカムだと思う。一方で、遠位のアウトカムは社会的な広まり、市民や地域への影響になると思う。こういうものは創出までに時間がかかるので、時間がかかるということについてストーリー性をもってうまく見せていくというのが大事になる。そして、そうすることによって、遠位のアウトカムを定量的に見せる実証研究もある程度可能になるのではないかと考える。遠位のアウトカムを考えるとステークホルダーが多くなるので、最初はあまり想定していなかったけれど、広げないとうまくインパクトを出せないよね、エンゲージメントをもっと考えないとダメだよね、という議論が増えていくことが期待できる。こういったことも含め、今回の議論を通じて、大学側の社会的インパクトについての説明力が高まっていくことが期待される。

事後アンケートの結果

◎アンケート対象：

ワークショップ参加者 27 名うち、登壇者 2 名および北海道大学担当 URA1 名を除く 24 名

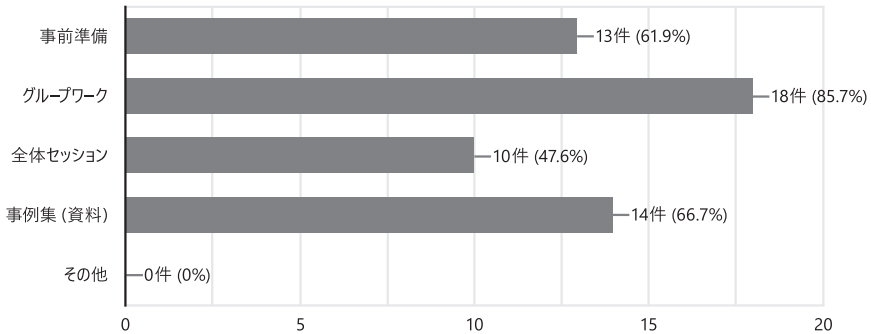
◎回答数：

21 件（回答率：87.5%）

◎質問項目

- ① 満足度：満足 14 件（66.7%）、やや満足 5 件（23.8%）、
どちらでもない・ふつう 2 件（9.5%）、
やや不満 0 件（0%）、不満 0 件（0%）

② 良かった内容（複数回答可）



③ 満足度や良かった内容について、なぜそのように回答したかの理由、ワークショップについての意見や感想など（自由回答、文末のカッコ内は①②の回答）

〈事前準備～グループワーク、事例について〉

- ・事前準備では、新しく研究者とその研究を知ることができ、自分なりに社会的インパクトとは何かを考える機会になったことがとても良かった。グループワークや全体セッションでは、それぞれが考える社会的インパクトが異なることが分かり、その評価が難しいものであるだろうと認識できた。事例集もとても参考になるので、ありがたいと思った。（満足／事前準備、グループワーク、全体セッション、事例集）
- ・「社会的インパクト」という言葉が具体的な事例になることで、参加者間のイメージ共有ができた点がとてもよかったです。また、事前準備は割と負担は高かったのですが、自分の考えを整理するきっかけとなってありがたかったです（こういう機会がないと普段の業務に流されて落ち着いて考える機会がないので...）。（満足／事前準備、グループワーク、全体セッション、事例集）
- ・今回のワークは正直、事前準備の負担が大きかったが、その分真剣で厚みのある話し合いができた。お土産（事例集）も価値あるものとなった。（満足

／事前準備、グループワーク、全体セッション、事例集)

- ・ 自分で事前準備をしてからワークに臨んだので、より深い議論ができたと思う。(満足／事前準備、グループワーク、事例集)
- ・ 自分の事例はまったく余裕がなく、申し訳なかったですが、みなさんがこれこそは、と示してくださった事例から、とても豊かな多様性や、将来に向けてのポジティブな研究の力を感じられたように思い、運営費交付金配分に限らず、研究の魅力の可視化という目的でも十分に使える型のように再発見しました。(満足／グループワーク、全体セッション、事例集)
- ・ 事例集は、参加者がどのような観点で、どのように社会的インパクトを評価しているのか、非常に参考になります。これを眺めながら、自分の事例に応用させる方法を考えられるだけでも、参加した価値があったと考えられます。改めて、みなさまが作成された資料の「自分限りでの」提供に感謝申し上げます。(満足／グループワーク、事例集)
- ・ 実際にやってみることで、エンゲージメントの評価をする重要性やエビデンスを示す難しさ、研究の多面性を感じられた。(満足／事前準備、グループワーク)
- ・ 自身の研究テーマについて、別の視点からの意見を得ることができたから。(満足／グループワーク)
- ・ 各参加者がさまざまな社会的インパクトの事例を取り上げていて、自分自身の社会的インパクトの定義の枠組みが広がった気がしました。(やや満足／事前準備、グループワーク、事例集)
- ・ 大学の研究プロジェクトの社会的インパクト評価について、実際に自分の手

で試行できたことが良かった。(やや満足／事前準備、事例集)

- ・事前準備は思考の整理に役立った。また、グループワークは色々な意見を聞くことができて参考になった。(どちらでもない・ふつう／事前準備、グループワーク)

〈要望・改善点〉

- ・資料の準備が難しく感じました(とりあえず埋めました)。参加者の事例を拝見・拝聴して、とても勉強になりました。グループワークも全体セッションも同意できる内容ばかりでした。人社 URA の皆様の課題感を伺っていると、研究分野は違えど、同じような課題だと感じました。短時間でのワークでしたので、皆様との協議が中途半端になってしまったのが残念でした。(満足／事前準備、グループワーク、全体セッション、事例集)
- ・事前準備の資料はどの方のものもとても興味深い内容でした。可能であれば、事前に資料を配布いただき、その内容を把握したうえでグループディスカッションができれば、もう少し掘り下げられたように思いました。ディスカッションはとても楽しく、もっと時間があつたらと感じました。(満足／事前準備、グループワーク、事例集)
- ・スケジュールの都合上やむを得ませんが、グループワークの時間がもう少しあると良かったです。(やや満足／事前準備、グループワーク、全体セッション、事例集)
- ・正解が決まっていないテーマだと思うので、各参加者の考え、事例を知ることができて参考になった。一方で、ワークショップの目的・ゴールがはっきりしていなかった気がするので、例えば「自分たちが考える社会的インパクトの定義とは」など、何かしらお題があると議論しやすかったように思う。(どちらでもない・ふつう／事前準備、事例集)

※以下の資料は、<https://u4u.oaic.hokudai.ac.jp/12466/> に掲載されています。

第19回JINSHA情報共有会：ワークショップについて

<テーマ> 研究の社会的インパクトとはどういうものか～事例から学ぶ

<目的>

日常業務では社会的インパクトをどのように評価するのが話題になりがちですが、そもそも**社会的インパクトとはどういうもので、研究が社会的インパクトを生み出すとはどういうことなのか**をテーマとすることで、まず社会的インパクトを**社会の一員である自分と関係のあるもの**として考えてみることからスタートしたいと考えます。そのうえで、なぜ評価するのか、どのように評価するのか、可視化がなぜ必要かなど、第1部とも接続しながら社会的インパクトに関する日ごろの疑問や試みなどを共有し、多様な考えから学ぶことにより、各々の理解を深めることを目指します。

<プログラム>

日時 : 15時10分～17時10分 (120分)
場所 : 北海道大学 札幌キャンパス 創成科学研究棟 5F大会議室
開催形式 : 対面(30人程度)※企画メンバーがオンラインで参加予定です
1グループ4～6人 × 5～6グループ ※グループ分けは当日発表
タイムテーブル :
前説 5分
グループワーク 50分(各自が事前準備について発表3分⇒グループディスカッション)
全体発表(5分発表・3分質疑 × MAX 6グループ) 50分
全体ディスカッション、登壇者からのコメント 15分

1

事前準備について

- 1) ワークショップでは、参加者がアカデミアにおける**研究が国内外で社会的インパクトを創出している(した)と思う事例**を持ち寄り、社会的インパクトとは何かについての議論を深めます。
- 2) 参加者には、指定の準備シート(別添パワポ様式、本資料6～9頁参照)に沿って、社会的インパクトについての事前準備をお願いします。提出いただいたものは、ワークショップ参加者限りで共有(※)します。この点をご確認の上、ご準備くださいますようお願いいたします。また当日共有される事例の取り扱いについても、あらかじめご確認ください。
(※)会場での紙媒体配布、ならびにデータ共有(閲覧のみ、ダウンロード不可)
- 3) グループワークではご準備いただいた事例を発表していただきます(各自の発表時間は3分程度)。
- 4) 完成した準備シートはPDF化し**前日10月8日午前10時までに事務局にメールでお送りください**(送付先: jinshaforum_hokudai@oeic.hokudai.ac.jp)。事務局で取りまとめます。
- 5) グループディスカッションでは、各事例の特徴について、なぜ評価するのか、どのように評価するのかを念頭に議論し、議論の内容を全体発表会で発表していただく流れとなります。
- 6) 不明点などは、メールにてお気軽にお問い合わせください。
(北海道大学統合URA本部・中野: nakano@oeic.hokudai.ac.jp)

2

準備シート作成に当たっての留意点

- 1) 事例は、ご所属の組織内のものでも他機関のものでも構いません。ご自身が、面白い、スゴイと思った事例を取り上げてください。
- 2) 研究が創出する社会的インパクトの事例を取り上げてください。研究プロジェクト等として研究以外の要素が含まれる場合は問題ありませんが、教育活動など研究以外が基となり創出される社会的インパクトは除きます。
- 3) 取り上げた社会的インパクトがどの領域で創出されたかは、REF2021などの領域の例示を参考にしてください。インパクトの種類 (Type) も多様です。どこかに当てはめることに捉われずに、ご自身の取り上げた事例がどういうものかを参加者に伝えるための参考としてください。
- 4) 事例について、以下のURLが参考になります。発表事例をここから選んでも構いません。
 ※イギリスREF2021 <https://results2021.ref.ac.uk/>
 REF2021: 4Star impact case studies <https://www.stephenkemp.co.uk/ref2021-4-star-impact-case-studies/>
 オーストラリア ARC DATA Portal: Impact Studies <https://dataportal.arc.gov.au/EI/Web/Impact/ImpactStudies>
 日本学術会議報告「人文・社会科学の研究による社会的インパクト ～事例調査に基づく評価のあり方の検討～」
<https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/kohyo-25-h230901-abstract.html>
 ※ 本報告書に事例集があります (25-32頁) 一覧表が以下にありますので、こちらもご活用ください
<https://docs.google.com/spreadsheets/d/1h6XvETzdM3b5lIP03xeqMGqbLn5ANew8parO-UNSU/edit?pli=1&gid=1195779809#gid=1195779809>
- 5) 様式 (PPT) を用い、基礎情報を含めて全体を4枚以内でおさめてください (文字は12ポイント)。当日は2アップ両面印刷で参加者に配布します。図なども用いても構いません。
- 6) 記入内容の「正解」はありません。むしろ皆さんの試行や模索、疑問点を積極的に発表していただき、研究の社会的インパクトの意味や意義、研究評価や評価結果の活用の意義や課題についての議論につなげたいと思います。

3

(参考) REF2021での審査区分

<https://2021.ref.ac.uk/panels/units-of-assessment/index.html>

The 34 units of assessment are grouped into 4 main panels: • Main panel A: Medicine, health and life sciences • Main panel B: Physical sciences, engineering and mathematics • Main panel C: Social sciences • Main panel D: Arts and humanities	<table><tr><td>1 - Clinical Medicine 2 - Public Health, Health Services and Primary Care 3 - Allied Health Professions, Dentistry, Nursing and Pharmacy 4 - Psychology, Psychiatry and Neuroscience 5 - Biological Sciences 6 - Agriculture, Food and Veterinary Sciences</td><td rowspan="2">A</td></tr><tr><td>7 - Earth Systems and Environmental Sciences 8 - Chemistry 9 - Physics 10 - Mathematical Sciences 11 - Computer Science and Informatics 12 - Engineering</td></tr><tr><td>13 - Architecture, Built Environment and Planning 14 - Geography and Environmental Studies 15 - Archaeology 16 - Economics and Econometrics 17 - Business and Management Studies 18 - Law 19 - Politics and International Studies 20 - Social Work and Social Policy 21 - Sociology 22 - Anthropology and Development Studies 23 - Education 24 - Sport and Exercise Sciences, Leisure and Tourism</td><td rowspan="2">C</td></tr><tr><td>25 - Area Studies 26 - Modern Languages and Linguistics 27 - English Language and Literature 28 - History 29 - Classics 30 - Philosophy 31 - Theology and Religious Studies 32 - Art and Design: History, Practice and Theory 33 - Music, Drama, Dance, Performing Arts, Film and Screen Studies 34 - Communication, Cultural and Media Studies, Library and Information Management</td></tr></table>	1 - Clinical Medicine 2 - Public Health, Health Services and Primary Care 3 - Allied Health Professions, Dentistry, Nursing and Pharmacy 4 - Psychology, Psychiatry and Neuroscience 5 - Biological Sciences 6 - Agriculture, Food and Veterinary Sciences	A	7 - Earth Systems and Environmental Sciences 8 - Chemistry 9 - Physics 10 - Mathematical Sciences 11 - Computer Science and Informatics 12 - Engineering	13 - Architecture, Built Environment and Planning 14 - Geography and Environmental Studies 15 - Archaeology 16 - Economics and Econometrics 17 - Business and Management Studies 18 - Law 19 - Politics and International Studies 20 - Social Work and Social Policy 21 - Sociology 22 - Anthropology and Development Studies 23 - Education 24 - Sport and Exercise Sciences, Leisure and Tourism	C	25 - Area Studies 26 - Modern Languages and Linguistics 27 - English Language and Literature 28 - History 29 - Classics 30 - Philosophy 31 - Theology and Religious Studies 32 - Art and Design: History, Practice and Theory 33 - Music, Drama, Dance, Performing Arts, Film and Screen Studies 34 - Communication, Cultural and Media Studies, Library and Information Management	医学保健・ライフサイエンス 物理学・工学・数学 社会科学 芸術・人文学
1 - Clinical Medicine 2 - Public Health, Health Services and Primary Care 3 - Allied Health Professions, Dentistry, Nursing and Pharmacy 4 - Psychology, Psychiatry and Neuroscience 5 - Biological Sciences 6 - Agriculture, Food and Veterinary Sciences	A							
7 - Earth Systems and Environmental Sciences 8 - Chemistry 9 - Physics 10 - Mathematical Sciences 11 - Computer Science and Informatics 12 - Engineering								
13 - Architecture, Built Environment and Planning 14 - Geography and Environmental Studies 15 - Archaeology 16 - Economics and Econometrics 17 - Business and Management Studies 18 - Law 19 - Politics and International Studies 20 - Social Work and Social Policy 21 - Sociology 22 - Anthropology and Development Studies 23 - Education 24 - Sport and Exercise Sciences, Leisure and Tourism	C							
25 - Area Studies 26 - Modern Languages and Linguistics 27 - English Language and Literature 28 - History 29 - Classics 30 - Philosophy 31 - Theology and Religious Studies 32 - Art and Design: History, Practice and Theory 33 - Music, Drama, Dance, Performing Arts, Film and Screen Studies 34 - Communication, Cultural and Media Studies, Library and Information Management								

4

4

(参考) REF2021での社会的インパクトの定義

https://2021.ref.ac.uk/media/1848/ref2021_key_facts.pdf

What is “Societal Impact”?

Impact “is defined as an effect on, change or benefit to the economy, society, culture, public policy or services, health, the environment or quality of life, beyond academia.”

インパクトとは「**学問の枠を超えて**、経済、社会、文化、公共政策やサービス、健康、環境、生活の質に対する影響、変化、利益と定義される」

Area of Impact REF 2021 Annex A of Panel criteria and working methods から

Impacts on the health and wellbeing of people, and animal welfare/Impacts on creativity,culture and society/ Impact on social welfare/Impacts on commerce and the economy/Impacts on public policy, law and services/ Impacts on production/Impacts on practitioners and delivery of professional services,enhanced performance or ethical practice/Impacts on the Environment/Impacts on understanding,learning and participation

人々の健康と福祉、動物福祉へのインパクト、創造性・文化・社会へのインパクト、社会福祉へのインパクト、商業と経済へのインパクト、公共政策・法律・サービスへのインパクト、生産へのインパクト、実務家および専門サービスの提供・業績向上・倫理的実践へのインパクト、環境へのインパクト、理解・学習・参加へのインパクト

※インパクトの種類については、<https://2021.ref.ac.uk/publications-and-reports/panel-criteria-and-working-methods-201902/index.html> を参照

国立大学法人運営費交付金「ミッション実現戦略分」の評価における社会的インパクトの定義

(文部科学省事務連絡/2024年3月27日)

：社会的インパクトとは「国立大学が、我が国社会の公共財として、**学術的な価値だけでなく**、社会、経済、国民生活等の進歩に与えた影響」

(社会的インパクトを生み出す「主体」は国立大学で、研究だけでなく**教育や地域貢献**が基礎となるインパクトも対象)

インパクトの領域(例)：

国際社会への寄与/地域社会への寄与/政策形成への寄与/診療・福祉の改善への寄与/社会インフラの強化/新産業基盤の創出/地球環境・資源の保全への寄与/新しい文化創造への寄与/専門職の高度化への寄与

5

準備シート①

氏名：

所属：

緑色の文字は提出時には削除し、行間を詰めて記載してください

事例のタイトル

「

社会的インパクト創出のメインプレーヤー：※大学や研究所、研究プロジェクトチーム、個人研究者、等の名称（複数可）

研究分野：A-医学・ライフサイエンス、B-物理・工学・数学、C-社会科学、D-芸術・人文学（

※A～Dのいずれかを○で囲み、カッコ内にREF2021の34分野から一番近い番号を記載してください。34分野については4頁を参照。

基となる研究が実施されていた時期：年 月 ～ 年 月

社会的インパクトが発現された時期：年 月 ～ 年 月

※時期の制限は設けません。

1. 取り上げた事例の社会的インパクトについて説明してください

※文字の大きさは12P

① インパクトの領域（Area）、種類（Type）、インパクトの規模（ローカル・ナショナル・グローバルなど）を意識して説明してください（「準備シート作成にあたっての留意点」（3頁）の3）を参照）

② データベースなどを参照した場合は元となる情報のURLも記載してください

6

準備シート②

氏名：

所属：

緑色の文字は提出時には削除し、行間を詰めて記載してください

(1. つづき)
※文字の大きさは12P

2. インパクトの基盤となっている研究について説明してください。

※文字の大きさは12P

7

準備シート③

氏名：

所属：

緑色の文字は提出時には削除し、行間を詰めて記載してください

(2. つづき)
※文字の大きさは12P

3. 事例の面白さ、特徴的な点などをこの事例をとりあげた理由を含めてご説明ください。

※文字の大きさは12P

8

準備シート④

氏名：

所属：

緑色の文字は提出時には削除し、行間を
詰めて記載してください

(3. つづき)

※文字の大きさは12P

4. そのインパクトは根拠となる情報源（source＝根拠データ、指標など定量的なもの、根拠となる事実等が掲載されている報告書、記事など）に紐づけることができそうですか。できそうならどんなものがあるか可能な範囲で、難しい場合はその理由をご記入ください。

※文字の大きさは12P

全体を4枚以内でまとめてください

当日は2アップ両面で印刷します

各項目の分量など自由です（枠はあくまで例示です。適宜調整してください）

図表を使っていただいても構いません

9